

〔個人テーマ研究のまとめ〕

鹿児島県立古仁屋高等学校 氏名 宇都慎一朗

1 研究主題

生徒の心理状態を捉え、協働的に支援する定期教育相談システムに関する実証的研究

2 研究のねらい

定期教育相談は、ほとんどの学校において年間計画に基づいて定期的に行われる教育相談活動の1つである。定期教育相談の特性としては、時間や場所が確保できる、互いに面談に備えての心の準備や相談内容を予め考えることができる、話した内容の秘密を生徒と教師間で共有することができるといったことが考えられ、授業やクラス活動以外の時間から教師が生徒理解を深めることができる重要な機会に成りえる。しかし、実際は、時間が制限されているために、生徒が悩みや問題を打ち明けることができずに面談が終わってしまったり、問題が明らかになったとしても相談された教師がどのように対応したらよいのかの分からずに抱え込んでしまったりといったことが起こり得る。

現在、教育相談活動に求められていることは、行動として表面化はしていないものの心の葛藤を抱えている生徒を支援したり、すべての生徒が自らの自己実現に向けて進んでいくことができるように支援したりすることが指摘されており、また、教育相談の体制としては、一部の教師が相談内容を保有しておくのではなく組織的・包括的な観点から取り組まれるべきであるという考えが広がりつつある。

そこで、本研究では、生徒理解の充実度を高められる定期教育相談のシステムを探求し、効率的かつ効果的な相談活動となるためにおいて欠かせないチーム援助の組織化に着眼点を置いて、以下7項目の検討をする。

- (1) 定期教育相談システムの検討
- (2) 定期教育相談用事前調査尺度の作成
- (3) 面談用生徒個人カルテ・職員研修用資料の作成
- (4) 定期教育相談事後調査の検討
- (5) 事例研究の在り方
- (6) 協働的生徒支援体制の考察
- (7) 定期教育相談の課題

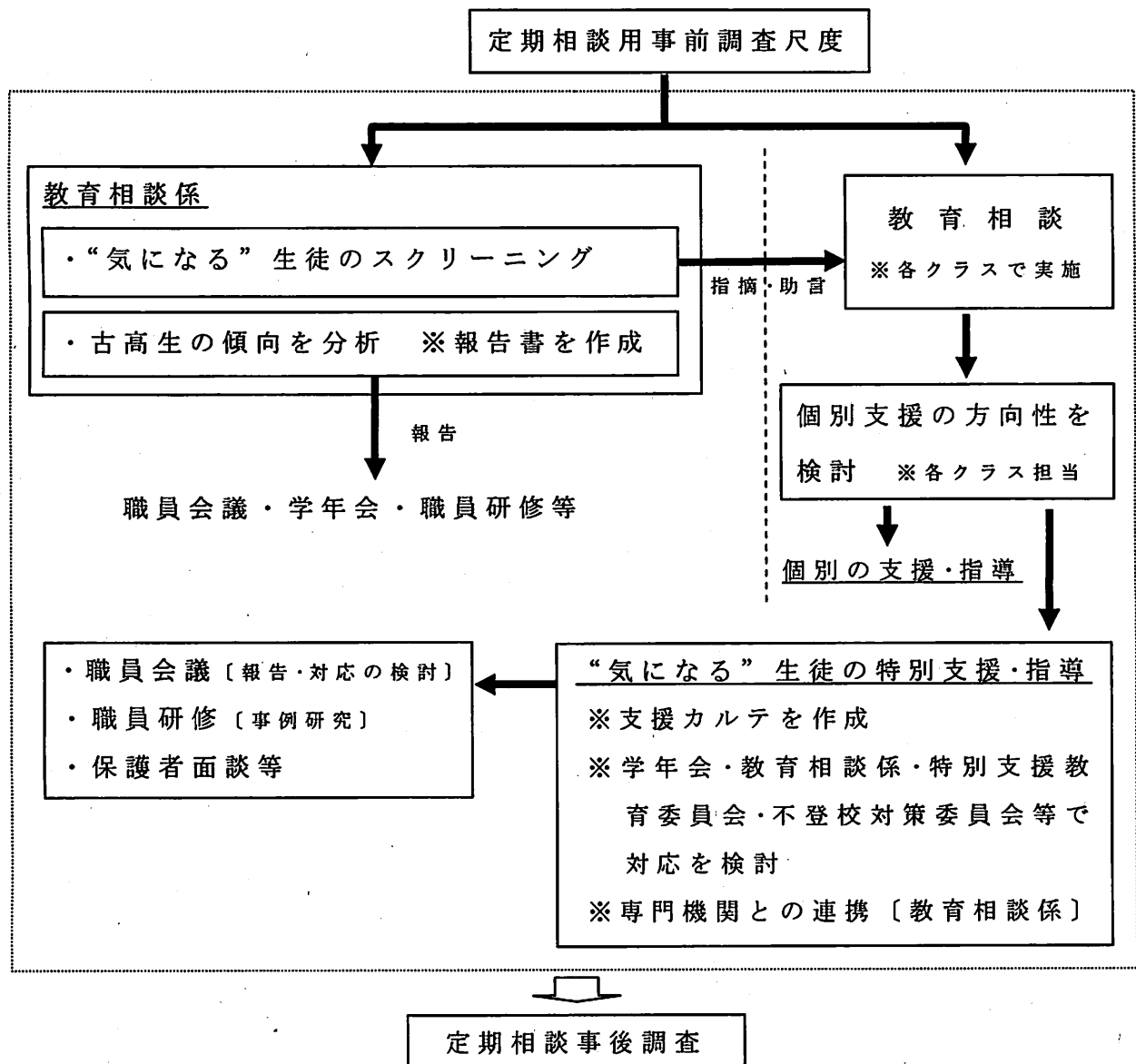
3 研究経過

(1) 定期教育相談システムの検討

定期教育相談のシステムの検討にあたり、教育相談の目標を次のように定めた。

- ・生徒理解を深めることのできる教育相談を目指し、より充実した校内支援体制に取り組む。
- ・“気になる”生徒の事例研究や、職員の面接スキルを高める職員研修・学習会を企画する。

上記の目標に基づき、以下のような定期教育相談のシステムを図式化し、全職員に対して事前説明を行った。



システム化にあたり、以下の点について留意した。

- ①定期教育相談用事前調査を実施し、本校生の全体の傾向を分析するとともに、“気になる”生徒のスクリーニングを行なう。

② “気になる”生徒については特別支援・指導の対象者として個に応じた支援策を検討する。場合によっては、専門機関とタイアップして取り組んだ対応を行う。

③ 定期教育相談後、事後調査〔職員〕を実施し改善点を検討する。

(2) 定期教育相談用事前調査尺度の作成

内的あるいは外的に生徒が抱えているものは「リソース」と呼ばれ、内的リソースとしては能力や興味関心のあることなど、外的リソースとしては家族、友達、愛用のものなどがある。

定期教育相談において、教師が意識して生徒の抱えているリソースについて相談することは、生徒の意欲を引き出すことが期待できる効果的な定期教育相談を進めることになる。そこで、定期教育相談を実施する前にリソースを見付ける目的において事前調査の質問紙を準備した。

本校の定期教育相談は、例年、2回企画しており、第1回目は5月中旬、第2回目は11月中旬の時期に実施している。事前調査尺度は、心理測定尺度集等を参考に、生徒の状況を勘案しながらそれぞれ作成した。

第1回目 定期教育相談用事前調査尺度〔資料①②〕

新学年がスタートして1ヶ月少しである時期を考え、学校生活に適應できているか、精神的に落ち着いているかを調査目的とし、「自己肯定意識尺度（平石 1990）」と特別支援教育に関する「自己評価尺度」の2部構成による質問項目で構成した。

・調査日 1年:5月18日（火）6校時 2・3年:5月11日（火）6校時

・自己肯定意識尺度

青年期における自己肯定意識の発達のあるり方を検討するために作成されたもので、項目の内容は青年期特有の心性を反映させたものになっている。尺度は、対自己領域〔下位成分：自己受容、自己実現態度、充実感〕と対他者領域〔下位成分：自己閉鎖性・人間不信、自己表明・対人的積極性、被評価意識・対人緊張〕から構成される。

・特別支援教育に関する自己評価尺度

LD・ADHD・高機能自閉症をまとめて発達障害といい、全国に6.3%（20人クラスで2人以下）いるといわれる。知的発達の遅れを伴わない軽度発達障害には「書く」「読む」「記憶する」「計算する」など、学校の学習活動の基本的なスキルが極端に苦手になっているケースがある。自己評価尺度では、学習面・対人関係面・行動面において“困り感”をもっていないかを回答する質問項目となっており、個に応じた支援・指導に活用するねらいがある。

第2回目 定期教育相談用事前調査尺度〔資料③④⑤〕

2回目の定期教育相談が2学期中期に実施されることから、事前調査は学校生活が充実しているか、対人関係に悩みを抱いていないかを把握することをねらいとし、質問紙は「学校生活満足度尺度（河村 1991）」と、学習・進路・人間関係・家族の各分野において3～6項目の中から最も気になっていることを選択して具体的な内容を記述回答する内容で構成した。

・調査日 全学年:10月26日（火）～29日（金）の期間

・学校生活満足度尺度

高校生が自分の存在や行動が級友や教師から承認されているか否かを示す“承認得点”と、不適応感やいじめ・冷やかしなどを受けているかを示す“被侵害・不適応得点”の2つの得点から、高校生の学校生活における満足感をはかり、それぞれの得点を全国平均値と比較して4つの群に分類する。

(3) 面談用生徒個人カルテ・職員研修用資料の作成

事前調査尺度の回答を個人・学年・学校で分析し、個人データは定期教育相談時のリソースとして活用できるように「教育相談カルテ」として学級担任にファイル化して配付し、学年・学校のデータは本校生の傾向や特徴、課題を検討する職員研修資料として作成した。

・第1回目 定期教育相談用事前調査尺度分析結果

自己肯定意識尺度：教育相談用カルテ（個人データ）〔資料⑥⑦〕

職員研修用資料：学年・学校分析データ〔資料⑧⑨〕

特別支援教育に関する自己評価尺度：職員研修用資料〔資料⑩〕

・第2回目 定期教育相談用事前調査尺度分析結果

自己肯定意識尺度：教育相談用カルテ（個人データ一覧表）〔資料⑪〕

職員研修用資料：学年・学校分析データ〔資料⑫〕

職員研修用資料：選択項目・記述回答集計結果〔資料⑬⑭⑮〕

(4) 定期教育相談事後調査の検討

定期相談期間の終了後に、事後調査用紙〔資料⑯〕を配付し、深刻な相談内容や気がかりな生徒のケース、相談を終えて全体的に気づかれたこと、改善・検討してほしいことなどについて報告してもらい、多くの職員が生徒情報を共有化して全職員による支援策を検討できるようにした。

(5) 事例研究の在り方

日常の学校生活の様子や定期教育相談で発覚した注意を要する生徒については、全職員で情報を交換したり対応策を検討したりする“事例検討会”を企画して実施した。第1回の事例検討会については、“事例検討会の進め方”と事例検討会用の記録用紙を準備し〔資料⑰⑱〕、インシデントプロ

セスに基づいた会の進行や留意点等について説明をしてから実施した。

(6) 協働的生徒支援体制の考察

学級担任や教育相談係のみが、定期教育相談等で発覚した注意を要する生徒へ意識を高めたとしても、組織としての取組は困難である。そのためには、担任や特定の教員が個別支援を行うよりも複数の教員が支援を行うティーム・ティーチングのような形態による協働的な生徒支援体制を構築することが望まれる。この場合、指導・支援の内容、方法等の情報を複数の教員が共有する機会を設けることやシステムを構成することが不可欠となる。校内における連携のために共通理解を図り、指導・支援の方策を検討する場が生徒指導係会や学年会、(5) でまとめた事例検討会となる。

定期教育相談における協働的生徒支援体制の構築に求められることは、①定期教育相談事前調査の分析報告や定期教育相談後の情報交換、②注意を要する生徒の学校内外での多面的な情報交換と共通理解、③これまでの生徒の指導内容・支援方法の経過報告、④今後の教員個々のノウハウを活用した支援策の協議などが考察される。④については、管理職、学級担任、教育相談係、養護教諭、所属学年の教員、部活動顧問等、校内の様々な職員が具体的な事例を基に情報を交換することにより、有効な指導・支援の方法を教員が共有することが可能となり、また、生徒の事例を検討するプロセスによって個々の教員の指導・支援の幅を広げることにもなると考えられる。本研究における定期教育相談システムでは、以上のことを留意し、協働的生徒支援体制に基づいた定期教育相談を目標に取り組んだ。

(7) 定期教育相談の課題

本研究では、生徒理解の充実度を高められる定期教育相談のシステムを探求する目的において、効率的かつ効果的な相談活動に不可欠となるチーム援助の組織化に着眼点を置いて取り組んでみた。約1年間の取り組みを振り返り、課題点として捉えている点は、①教育相談事後シートの回収率の向上、②教育相談実施後の“気になる”生徒のスクリーニングのシステム、③事例検討会における意見交換の活性化の3点である。

①・②の対策に関しては、教育面談を実施した職員に報告書の提出を単に求めるのではなく、教育相談係が直接回収に回って、その際に、報告書の内容や紙上にまとめていない生徒情報についての確認をすることが1つの案として考えられる。③については、何でも気軽に相談し合える会のあり方や進行方法の工夫、参加者の「私ならこうする。」といった基本的な姿勢・意識作り、そして、指導・支援の方法や方向を再評価する意味においても、事例検討会を企画するタイミングなどが考えられる。

4 研究のまとめ

心理測定尺度を用いた定期教育相談事前調査を実施したことにより、生徒の内面的リソースや最も悩んでいる具体的な内容などをある程度把握することができ、本研究のテーマである生徒の心理状態を重視した定期教育相談を行うことができたと振り返る。しかし、協働的に支援する定期教育相談システムの効率化については、教育相談に関する研修と実践、そして、より高度な専門性を習得していく経験を積まなければならない必要性を感じた。また、本研究の報告書においては、具体的な生徒支援についてはまとめなかったが、生徒支援の段階においては、教師個人の対応だけでなく、校内や校外での連携も必要になってくることから、どのような生徒支援の連携体制のあり方が望ましいのかを探究する必要性も実感した。

最後に、本研究の取り組みが、本校の定期教育相談の効率化にどのような影響を与え、また、教師のチーム援助の組織化にどの程度寄与することができたのかは読み取れないところがあるが、私自身としては、更に研修を積み、教師と生徒への支援につながる努力をしていきたいと思う。

5 参考文献

堀 洋道：心理測定尺度集Ⅰ，サイエンス社，2005

堀 洋道：心理測定尺度集Ⅲ，サイエンス社，2005

鹿児島県教育委員会：高等学校における特別支援教育の推進～一人一人の生徒が自信を持って学ぶために～ 2010

第1回 定期教育相談事前調査

__年 __組 __番 氏名 _____

- ・学校生活での目標がはっきりしていますか。今、あなたが感じていることを先生に相談してみましょう。
- ・第1回教育相談期間は、5月24日（月）から31日（月）です。時間は放課後になります。
- ・相談場所、相談担当者は各クラスの担任（副担任）の先生から指示があります。

1 それぞれの項目をよく読んで、現在の自分にとって最もふさわしいところの番号に○印をつけてください。

	5	4	3	2	1
1 自分なりの個性を大切にしている。	5	4	3	2	1
2 私には私なりの人生があってもいいと思う。	5	4	3	2	1
3 自分の良いところも悪いところもあるのままだに認めることができる。	5	4	3	2	1
4 自分の個性を素直に受け入れている。	5	4	3	2	1
5 自分の夢をかなえようと意欲に燃えている。	5	4	3	2	1
6 情熱をもって何かに取り組んでいる。	5	4	3	2	1
7 前向きな姿勢で物事に取り組んでいる。	5	4	3	2	1
8 自分の良い面を一生懸命伸ばそうとしている。	5	4	3	2	1
9 張り合いがあり、やる気が出ている。	5	4	3	2	1
10 本当に自分のやりたいことが何なのか分からない。	1	2	3	4	5
11 自分には目標というものが無い。	1	2	3	4	5
12 生活がすごく楽しいと感じる。	5	4	3	2	1
13 わだかまりがなく、スカッとしている。	5	4	3	2	1
14 充実感を感じる。	5	4	3	2	1
15 精神的に楽な気分である。	5	4	3	2	1
16 自分の好きなことがやれていると思える。	5	4	3	2	1
17 自分はのびのびと生きていると感じる。	5	4	3	2	1
18 満足感がもてない。	1	2	3	4	5
19 こころから楽しいと思える日がない。	1	2	3	4	5
20 他人との間に壁をつくっている。	5	4	3	2	1
21 人間関係をわずらわしいと感じる。	5	4	3	2	1
22 自分は他人に対してこころを閉ざしているような気がする。	5	4	3	2	1
23 自分は一人ぼっちだと感じる。	5	4	3	2	1
24 私は人を信用していない。	5	4	3	2	1
25 友達と一緒にいてもどこかさびしく悲しい。	5	4	3	2	1
26 友達と話をしても全然通じないので絶望している。	5	4	3	2	1
27 他人に対して好意的になれない。	5	4	3	2	1
28 相手に気を配りながらも自分の言いたいことを言うことができる。	5	4	3	2	1
29 自分の納得のいくまで相手と話合っている。	5	4	3	2	1
30 疑問だと感じたらそれらを堂々と言える。	5	4	3	2	1
31 友達と真剣に話合う。	5	4	3	2	1
32 人前でもこだわりなく自由に感じたままをいうことができる。	5	4	3	2	1
33 人までもありのままの自分を出せる。	5	4	3	2	1
34 自主的に友人に話しかけていく。	5	4	3	2	1
35 人から何か言われぬか、変な目で見られぬかと気にしている。	5	4	3	2	1
36 人に対して、自分のイメージを悪くしないかと恐れている。	5	4	3	2	1

資料②

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない
37 自分が他人の目にどう映るかを意識すると身動きできなくなる。	5	4	3	2	1
38 他人に自分の良いイメージだけを印象付けようとしている。	5	4	3	2	1
39 無理して人に合わせようとしてきゅうくつな思いをしている。	5	4	3	2	1
40 自分は他人よりおとっているかすぐれているかを気にしている。	5	4	3	2	1
41 人に気をつかいすぎて疲れてる。	5	4	3	2	1

2 各項目をよく読んで、得意・不得意を答えてください。	得意	ちよつと得意	ちよつと苦手	苦手
1 形や大きさの整った文字を書くのは？	4	3	2	1
2 文字の書き間違いや書き落としなく、文章や言葉を書くのは？	4	3	2	1
3 アルファベットや英語の単語を正確に書くのは？	4	3	2	1
4 黒板を速く書き写すのは？	4	3	2	1
5 いろいろな文章をたくさん書くのは？	4	3	2	1
6 漢字など、暗記する学習は？	4	3	2	1
7 人の話を聞き間違いすることなく、よく聞きとめることは？	4	3	2	1
8 大勢の人や教室の中で、人の話を聞くことは？	4	3	2	1
9 話し合いの流れをよく理解して、参加することは？	4	3	2	1
10 友達や先生の質問に答えたり、人に話さなければならぬことをうまく伝えたりすることは？	4	3	2	1
11 漢字や文章を、読み間違いなくずらずと読むことは？	4	3	2	1
12 文章に何が書かれているか、理解することは？	4	3	2	1
13 +, -, ×, ÷などの計算は？	4	3	2	1
14 文字式の計算は？	4	3	2	1
15 図形の問題は？	4	3	2	1
16 文章問題は？	4	3	2	1
17 手先を使う細かな作業や道具の使用は？	4	3	2	1
18 ボール運動や縄跳びなどの運動、道具を使う運動は？	4	3	2	1
19 ルールのあるゲームや運動は？	4	3	2	1
20 持ち物や身の回りを整理整頓することは？	4	3	2	1
21 周りの音や人の様子などを気にせず、集中して活動することは？	4	3	2	1
22 いろいろなことに、長時間集中して活動することは？	4	3	2	1
23 計画的に行動したり、準備したりすることは？	4	3	2	1
24 時間や期日を守ることや、忘れ物をしないことは？	4	3	2	1
25 黙って行動したり、じっと我慢したりしていることは？	4	3	2	1
26 課題や周りのことに関心を向けて、活動することは？	4	3	2	1
27 その場や相手の雰囲気察して、行動することは？	4	3	2	1
28 表情や言葉から、相手の気持ちを感じることは？	4	3	2	1
29 人と会話をしたり、一緒に行動したりすることは？	4	3	2	1
30 自分の思いどおりにならなくても、適切に行動することは？	4	3	2	1

3 今、あなたにとって最も気になっていることはなにですか。次の中から選び番号に○印をつけてください。

- ① 学習について ② 成績について ③ 試験対策について ④ 将来の目標について ⑤ 志望校の選び方について
⑥ 就職について ⑦ 友人関係について ⑧ 異性の友人関係について ⑨ クラスについて ⑩ 部活について ⑪ その他

第2回 定期教育相談事前調査について

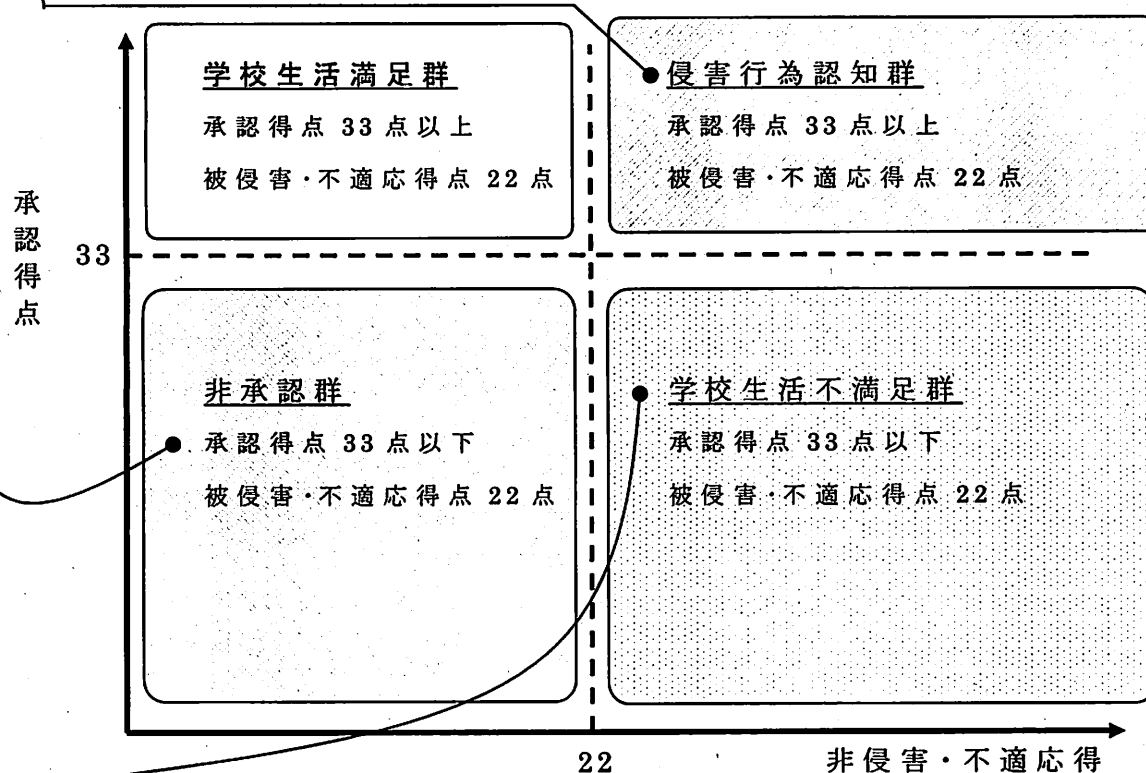
第2回の定期教育相談は半年を過ぎた11月に実施しますので、事前調査は「学校生活が充実しているか」、「対人関係に悩みを抱いていないか」を調べる学校生活満足度尺度（河村 1991）で構成した質問紙で行います。

学校生活満足度尺度

高校生が自分の存在や行動が級友や教師から承認されているか否かを示す“承認得点”と、不適応感やいじめ・冷やかしなどを受けているかを示す“被侵害・不適応得点”の2つの得点から、高校生の学校生活における満足感をはかり、それぞれの得点を全国平均値と比較して4つの群に分類する。

● 非承認群と侵害行為認知群

学校生活で積極的に活動し認められるという経験をもてていないことや、クラスメート等との対人関係において苦戦していることが考えられ、支援を必要としている可能性が考えられます。



● 学校生活不満足群

学校生活で積極的に活動し認められるという経験をもてていないと同時に、クラスメート等との対人関係において苦戦していることも考えられ、多く支援を必要としている可能性が考えられます。

第2回 定期教育相談事前調査 年 組 番 氏名

- ・学校生活での目標がはっきりしていますか。今、あなたが感じていることを先生に相談してみましょう。
- ・第2回教育相談期間は、11月15日（月）から19日（金）です。時間は放課後になります。
- ・相談場所、相談担当者は各クラスの担任（副担任）の先生から指示があります。

1 各質問をよく読んで丁寧に答えてください。

全くない あまりない どちらとも
いえない ときどきある よくある

1 私は勉強や運動、特技などで友人から認められていると思う。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
2 私はクラスの中で存在感があると思う。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
3 私はクラスや部活動でリーダーシップをとることがある。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
4 仲の良いグループの中では中心的なメンバーである。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
5 私は学校・クラスでみんなから注目されるような経験をしたことがある。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
6 学校生活で充実感や満足感を覚えることがある。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
7 私はクラスで行なう活動には積極的に取り組んでいる。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
8 学校内で私を認めてくれる先生がいると思う。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
9 在籍している学校に満足している。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
10 学校内に自分の本音や悩みを話せる友人がいる。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
11 私はクラスの人から無視されるようなことがある。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
12 私はクラスメートから、耐えられない悪ふざけ・暴力をされることがある。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
13 私はクラスや部活でからかわれたりバカにされるようなことがある。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
14 私は授業中に発言したり先生の質問に答えたりするとき、冷やかされることがある。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
15 私は部活動などの仲間から無視されることがある。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
16 クラスで班をつくるときなど、なかなか班に入れずに残ってしまうことがある。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
17 私はクラスの中で、孤立感を覚えることがある。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
18 私はクラスの中で浮いていると感じることがある。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
19 私は休み時間などに、一人であることが多い。	5	—	4	—	3	—	2	—	1
20 私はクラスにいるときや部活をしているとき、周りの目が気になって不安や緊張を覚えるときがある。	5	—	4	—	3	—	2	—	1

2 (1)～(4)の各項目について最も気になっている項目の□にチェック ☒ をつけ、具体的内容があれば()に書いてください。

(1) 学習について

- ☐ 学習する意欲について ()
- ☐ 勉強方法について ()
- ☐ 家庭学習について ()
- ☐ 部活との両立について ()
- ☐ 成績について ()
- ☐ その他 ()

(2) 進路について

- ☐ 自分の将来の目標について ()
- ☐ 親と卒業後の進路の相談の仕方について ()
- ☐ 志望校の選び方について ()
- ☐ 今の学力と志望校について ()
- ☐ その他 ()

(3) 人間関係について

- ☐ 友人関係について ()
- ☐ 異性の友達について ()
- ☐ その他 ()

(4) 家族について

- ☐ 家族との会話について ()
- ☐ 家族の中での心配事について ()
- ☐ 兄弟姉妹について ()
- ☐ その他 ()

3 学年・部活動の先生など、担任の先生以外に相談したい先生がいたら先生の名前を書いてください。 ()先生

教育相談用カルテ

No 1101 瀬戸内太朗

第1回 教育相談用事前調査

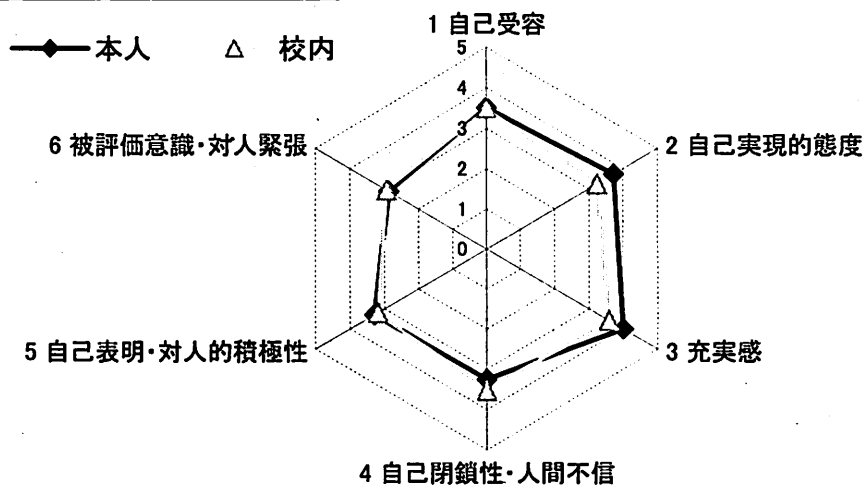
実施日 ○年○月○日

1. 自己肯定意識尺度結果

* 印は注意を要する……1・2・3・5は平均値3以下、4・5は平均値3以上

自己肯定意識 下位成分	本人	校内	全国	校内平均値との差
1 自己受容	14.00	14.00	15.83	0.00
2 自己実現的態度	26.00	22.67	21.60	-3.33
3 充実感	32.00	28.67	24.42	-3.33
4 自己閉鎖性・人間不信	26.00 *	28.17	19.89	2.17
5 自己表明・対人的積極性	23.00	22.33	22.58	-0.67
6 被評価意識・対人緊張	20.00	20.50	21.48	0.50

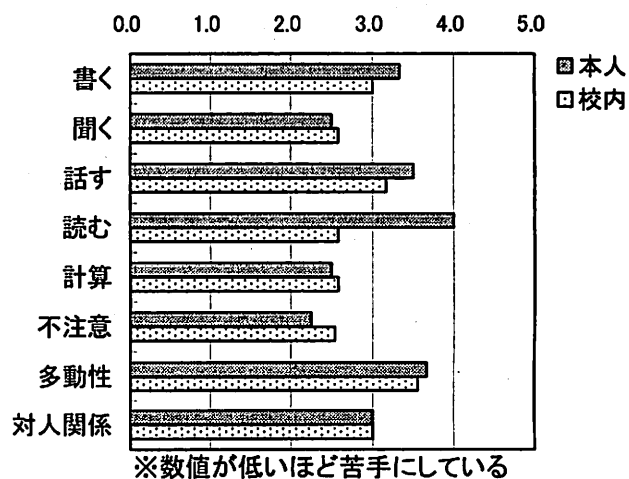
グラフの値は各項目の平均値



2. 特別支援教育自己評価結果

* 印は注意を要する(3>)

項目	本人	校内
1 書く	3.3	3.0
2 聞く	2.5 *	2.6
3 話す	3.5	3.2
4 読む	4.0	2.6
5 計算	2.5 *	2.6
6 不注意	2.3 *	2.5
7 多動性	3.7	3.6
8 対人関係	3.0	3.0



3. 今、最も気になっていること

5 志望校の選び方について

支援・指導の記録

指導日	事 実	支援・指導内容

--

教育相談用カルテ

古仁屋高等学校 資料

第1回 教育相談用事前調査

実施日 ○年○月○日

1. 自己肯定意識尺度結果

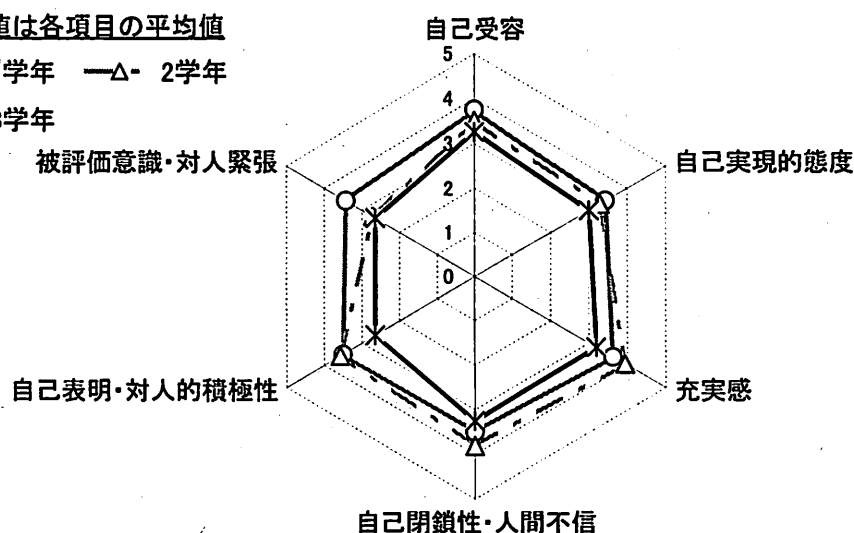
* 印は注意を要する……1・2・3・5は平均値3以下, 4・5は平均値3以上

自己肯定意識 下位成分	1学年	2学年	3学年	全体	全国
1 自己受容	15.00	14.00	13.00	14.00	15.83
2 自己実現的態度	24.00	23.00	21.00	22.67	21.60
3 充実感	29.00	31.50	25.50	28.67	24.42
4 自己閉鎖性・人間不信	28.00 *	30.50 *	26.00 *	28.17 *	19.89
5 自己表明・対人的積極性	24.50	25.00	18.50 *	22.33	22.58
6 被評価意識・対人緊張	24.00 *	19.00	18.50	20.50	21.48

グラフの値は各項目の平均値

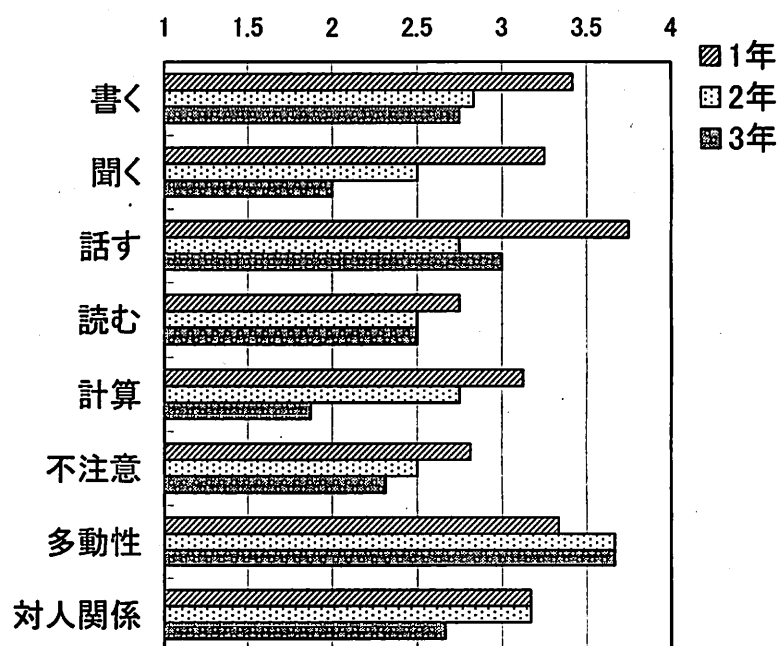
—○— 1学年 —△— 2学年

—*— 3学年



2. 特別支援教育自己評価結果

項目	学年	やや苦手	苦手
1 書く 6項目	1	1	0
	2	2	2
	3	2	3
2 聞く 2項目	1	1	0
	2	2	0
	3	2	1
3 話す 2項目	1	0	0
	2	0	1
	3	0	1
4 読む 2項目	1	0	1
	2	0	2
	3	0	2
5 計算 4項目	1	1	1
	2	2	2
	3	1	5
6 不注意 8項目	1	2	2
	2	4	2
	3	5	3
7 多動性 3項目	1	0	0
	2	0	0
	3	0	0
8 対人関係 3項目	1	2	0
	2	3	0
	3	4	0



※数値が低いほど苦手になっている

3. 今、最も気になっていること

	1年	2年	3年	全体	割合
1 学習について	0 人	0 人	0 人	0 人	0.00%
2 成績について	0 人	0 人	0 人	0 人	0.00%
3 試験対策について	0 人	0 人	0 人	0 人	0.00%
4 将来の目標について	0 人	0 人	0 人	0 人	0.00%
5 志望校の選び方について	1 人	2 人	2 人	5 人	83.33%
6 就職について	1 人	0 人	0 人	1 人	16.67%
7 友人関係について	0 人	0 人	0 人	0 人	0.00%
8 友人関係について	0 人	0 人	0 人	0 人	0.00%
9 クラスについて	0 人	0 人	0 人	0 人	0.00%
10 部活について	0 人	0 人	0 人	0 人	0.00%
11 その他	0 人	0 人	0 人	0 人	0.00%

第 1 回 定期教育相談事前調査〔特別支援教育関係〕結果の見方

1 それぞれの項目をよく読んで、現在の自分にとって最もふさわしいところの番号に○印をつけてください。

そう思う どちらかという
そう思う どちらとも
いえない どちらかという
そう思わない そう思わない

1	自分なりの個性を大切にしている。	5	4	3	2	1
2	私には私なりの人生があってもいいと思う。	5	4	3	2	1
3	自分の良いところも悪いところありのままに認めることができる。	5	4	3	2	1

1～30は質問項目の番号を示します。

個人の各項目の1～4の選択番号を示します。

実施日		H22.5.11.		特別支援教育自己評価尺度																														個人評価数			
No	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4		
1101	山田 太郎	4	3	1	3	2	1	2	2	2	2	1	2	3	4	1	4	4	4	3	2	2	3	2	1	2	4	4	3	3	5	10	8	7			
1102	鈴木 花子	1	2	1	2	2	3	3	3	3	3	3	3	4	3	1	2	3	2	2	4	4	3	2	3	4	3	3	3	3	3	7	16				
1103	田中 健太	2	2	2	2	2	3	2	3	2	2	3	3	3	2	1	2	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	10	18	0			
1129	佐藤 美咲	2	2	3	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	1	1	3	3	4	3	3	2	2	3	2	2	3	2	2	2	19	8	0			
1130	高橋 翔太	2	1	2	3	2	2	2	3	2	2	2	2	4	3	2	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	1	18	10	1			
各項目 評価数	1	5	4	6	3	5	4	4	3	2	3	5	3	1	3	10	14	3	3	2	2	2	3	2	1	4	1	2	1	0	0						
	2	15	16	9	14	13	12	15	10	14	16	13	14	6	7	13	12	13	4	5	12	11	10	12	19	12	15	7	7	4	9						
	3	7	8	10	10	8	12	9	14	12	10	9	11	16	16	6	3	11	13	13	9	13	14	13	8	9	12	14	13	15	17						
	4	13	2	3	3	4	2	2	3	2	1	3	2	7	4	1	1	3	10	10	7	4	2	3	2	5	2	7	8	9	4						

各項目の1～4の選択者数の累計を示します。

個人が選択した1～4の累計を示します。

教育相談用カルテ

第2回 教育相談用事前調査 学校生活満足度尺度 実施日 ○年○月○日

No	氏 名	承認得点	被侵害・不応得点	群
1101	瀬戸内太朗	37	38	侵害行為認知群
1102	瀬戸内純太朗	36	15	学校生活満足群
1103				
1104				
1105				
1106				
1107				
1108				
1109				
1110				
1111				
1112				
1113				
1114				
1115				
1116				
1117				
1118				
1119				
1120				
1121				
1122				
1123				
1124				
1125				
1126				
1127				
1128				
1129				
1130				
1131				
1132				
1133				
1134				
1135				
1136				
1137				
1138				
1139				

校 内 平 均

32.29

28.71

全 国 平 均

31.22

20.23

教育相談用カルテ

古仁屋高等学校 資料

第2回 教育相談用事前調査 学校生活満足度尺度 実施日 ○年○月○日

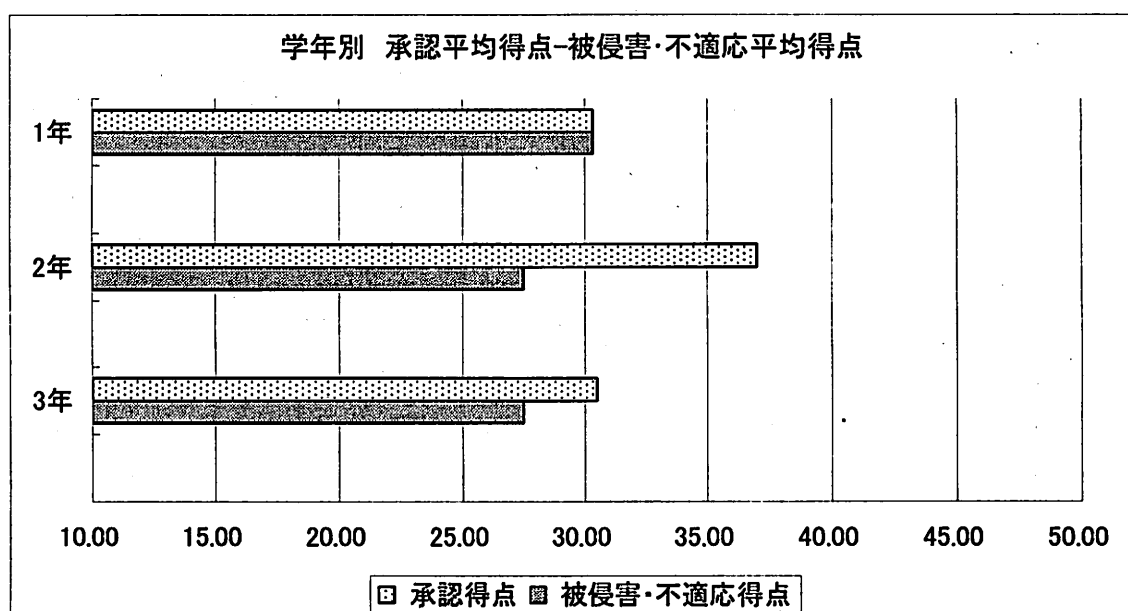
平均値	1年	2年	3年	全体
承認得点	30.33	37.00	30.50	32.29
被侵害・不適応得点	30.33	27.50	27.50	28.71

・承認得点

自分の存在や行動を友人や教師から承認されているという意識が強いと得点が高い

・被侵害・不適応得点

からかいや無視などのいじめ行為に対する被被害感や学校生活になじめない不適応感が示される



4つの群	1年	2年	3年	全体	割合
学校生活満足群	1 人	1 人	1 人	3 人	42.86%
侵害行為認知群	1 人	1 人	0 人	2 人	28.57%
非承認群	0 人	0 人	0 人	0 人	0.00%
学校生活不満足群	1 人	0 人	1 人	2 人	28.57%

- ・ 学校生活満足群：承認得点が33点よりも高く、被侵害・不適応得点が22点より低い生徒の群
- ・ 侵害行為認知群：承認得点が33点より低く、被侵害・不適応得点が22点よりも低い生徒の群
- ・ 非承認群：承認得点が33点よりも高く、被侵害・不適応得点が23点よりも高い生徒の群
- ・ 学校生活不満足群：承認得点が33点よりも低く、被侵害・不適応得点が22点より高い生徒の群

学年別集計結果表

1 各質問をよく読んで丁寧に答えてください。

1 私は勉強や運動、特技などで友人から認められていると思う。

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
1年	9	12	28	8	2
2年	4	5	18	12	1
3年	3	11	21	9	1

2 私はクラスの中で存在感があると思う。

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
1年	9	15	26	7	2
2年	3	7	20	7	3
3年	3	14	20	6	2

3 私はクラスや部活動でリーダーシップをとることがある。

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
1年	14	15	23	4	3
2年	7	11	14	3	5
3年	6	12	15	11	1

4 仲の良いグループの中では中心的なメンバーである。

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
1年	11	8	34	4	2
2年	5	5	25	5	0
3年	3	10	26	5	1

5 私は学校・クラスでみんなから注目されるような経験をしたことがある。

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
1年	12	13	23	5	6
2年	7	4	18	8	3
3年	7	12	14	11	1

6 学校生活で充実感や満足感を覚えることがある。

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
1年	9	10	23	13	4
2年	4	7	12	11	6
3年	2	5	6	21	11

7 私はクラスで行なう活動には積極的に取り組んでいる。

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
1年	2	11	25	15	6
2年	3	3	12	9	13
3年	0	7	9	18	11

8 学校内で私を認めてくれる先生がいると思う。

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
1年	8	8	38	3	2
2年	6	7	21	4	2
3年	1	5	25	11	3

9 在籍している学校に満足している。

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
1年	11	6	25	10	7
2年	2	12	9	8	9
3年	0	3	7	17	18

10 学校内に自分の本音や悩みを話せる友人がいる。

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
1年	3	9	22	12	13
2年	5	2	10	12	11
3年	1	3	10	14	17

11 私はクラスの人から無視されるようなことがある。

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
1年	31	11	15	0	2
2年	30	6	3	1	0
3年	36	5	3	1	0

12 私はクラスメートから、耐えられない悪ふざけ・暴力をされることがある。

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
1年	36	8	10	5	0
2年	30	5	4	1	0
3年	34	8	3	0	0

資料⑭

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
13 私はクラスや部活でからかわれたりバカにされるようなことがある。	1年 30	16	10	2	1
	2年 25	10	2	3	0
	3年 23	12	8	1	1

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
14 私は授業中に発言したり先生の質問に答えたりするとき、冷やかされることがある。	1年 35	11	10	3	0
	2年 24	9	5	1	0
	3年 34	7	3	1	0

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
15 私は部活動などの仲間から無視されることがある。	1年 44	7	6	0	2
	2年 35	3	2	0	0
	3年 38	6	1	0	0

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
16 クラスで班をつくるときなど、なかなか班に入れずに残ってしまうことがある。	1年 32	13	9	2	3
	2年 28	7	2	2	1
	3年 26	11	5	2	1

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
17 私はクラスの中で、孤立感を覚えることがある。	1年 26	13	11	6	3
	2年 25	8	5	2	0
	3年 27	9	6	2	1

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
18 私はクラスの中で浮いていると感じることがある。	1年 26	12	12	6	3
	2年 19	7	11	1	2
	3年 27	8	5	4	1

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
19 私は休み時間などに、一人でいることが多い。	1年 26	10	15	6	2
	2年 16	8	7	6	3
	3年 15	17	8	3	2

	全くない	あまりない	どちらとも いえない	ときどきある	よくある
20 私はクラスにいるときや部活をしているとき、周りの目が気になって不安や緊張を覚えるときがある。	1年 24	13	13	6	3
	2年 20	7	6	5	2
	3年 28	13	1	3	0

2 最も気になっている項目の集計結果 ※値は人数を示す

(1) <u>学習について</u>	1年	2年	3年	計
☐ 学習する意欲について-----	15	8	3	26
☐ 勉強方法について-----	16	12	7	35
☐ 家庭学習について-----	12	4	3	19
☐ 部活との両立について-----	9	7	0	16
☐ 成績について-----	18	10	2	30
☐ その他-----	0	4	1	5

(2) <u>進路について</u>	1年	2年	3年	計
☐ 自分の将来の目標について-----	30	17	6	53
☐ 親と卒業後の進路の相談の仕方について-----	8	3	0	11
☐ 志望校の選び方について-----	12	7	1	20
☐ 今の学力と志望校について-----	14	12	3	29
☐ その他-----	1	3	1	5

(3) <u>人間関係について</u>	1年	2年	3年	計
☐ 友人関係について-----	9	5	2	16
☐ 異性の友達について-----	3	3	0	6
☐ その他-----	1	2	5	8

(4) <u>家族について</u>	1年	2年	3年	計
☐ 家族との会話について-----	6	4	3	13
☐ 家族の中での心配事について-----	5	1	3	9
☐ 兄弟姉妹について-----	2	4	0	6
☐ その他-----	1	1	3	5

< 教育相談事後シート >

・氏名 _____ ・担当した生徒 _____ 年 _____ 組〔 _____ 名〕

- 1 相談で最も多かった内容と次に多かった内容の番号を選んでください。

- ①学習について ②成績について ③試験対策について
 ④将来の目標について ⑤志望校の選び方について ⑥就職について
 ⑦友人関係について ⑧異性の友人関係について ⑨クラスについて
 ⑩部活について ⑪その他

・最も多かった内容〔 〕 ・次に多かった内容〔 〕

- 2 相談の中で印象に残った内容がありましたら記入ください。

--

- 3 気がかりな生徒の中で、特別な支援・指導が必要であると思われる生徒（特別支援教育の対象）がいましたら記入ください。

生徒名	気がかりなところ

- 4 気がかりな生徒の中で、緊急に対応を検討した方が望ましいと判断された生徒がいましたら記入ください。

生徒名	気がかりなところ

- 5 教育相談において、教育相談係に伝えたいこと、学校全体で検討したいことなどがありましたら記入ください。

--

※お忙しいところすみませんが、〇月〇日までに〇〇のBOXに入れてください。

事例検討会の進め方

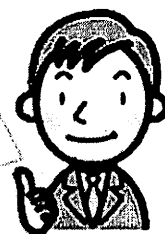
事例検討会の目的

『事例検討会』は、生徒の学校や家庭の様子等の実態に基づいて課題の背景や原因を探り、ニーズに応じた適切な指導や支援を検討していくものです。

- 具体的にどう指導や支援をしたらいいの？
- この指導や支援でいいの？
- もっといい指導や支援の方法があるのでは？
- 自分はどう動けばいいの？
- 順調に成長しているの？
- もっと得意なことがあるのでは？
- 他の先生ともっと話し合いたいけど？



事例検討により、このような悩みや疑問、不安の解消が期待でき、きめ細かな指導や支援を行うことにつながります。



特別な支援を必要としている生徒については、実態や課題等を踏まえ、全教職員が指導や支援についての共通理解を図り、全校体制で支援をすることが大切です。その際、校内で事例検討会を実施することにより、多面的な生徒の理解に基づく、きめ細かな指導や支援を行うことができます。

事例検討会のメリット

- ・事例検討の力が向上します。
- ・生徒の新たな姿を発見できます。
- ・指導や支援の実行力が向上します。
- ・チームで指導や支援を進める意識が高まります。
- ・話し合った内容をいろいろな場面で生かすことができます。

全職員で指導や支援を検討できるようになる！

事例検討会を進める上で気をつけることは？

- ・参加者は、事前に、確認したいこと、気になること等をメモする。
- ・好ましい結果に結びついた指導や支援を参考にして、協力できる事項を考える姿勢で参加する。
- ・長所に焦点をあてた生徒理解を進める。

事例検討会の進行～インシデント・プロセス法を参考にした事例検討会～

事例提供者からの短い象徴的な出来事（インシデント）に対して、参加者が質問することによって、事例の概要を明らかにしながら、問題の原因と具体的な対応を検討していく方法です。一つの事例を参加者が共有して考えることができるので、具体的な指導や支援に結びつけやすい利点があります。

< 進め方及び留意点 >

① 事例提供者が事例を発表する

提供者は原則として、5分程度口頭で発表。発表資料は、新たに作成せず、日頃の記録を参考に発表する。主な発表内容は、学年、性別、特徴的な行動、学習上の問題点、担任の願い等。

② 参加者が質問する（事例の背景の明確化）

- ・もう少し情報が欲しいところを質問

< 留意点 >

- ・質問は一问一答形式で具体的な内容を聞くようにします。
- ・事例の事実について質問し、事例提供者を責めるような質問はしないようにします。また、ここでは意見を言わないようにします。
- ・実際の事例を扱うため、個人のプライバシーには十分配慮します。

③ 指導や支援を考える（個人⇒グループ⇒全体）

- ・参加者一人で（時間がなければ省略）
- ・3 ～ 5 人のグループで一人ひとりが今後の方向性について意見を出し合う

④ 指導や支援をまとめる

- ・（代表者がグループの）意見を発表
※事例提供者の意見を裁いたり、価値観や感情を押しついたりすることがないようにします。
- ・事例提供者からの感想や意見
- ・指導助言者からのアドバイスや所見（必要に応じて）

事例検討会では、実践した指導や支援を評価することも大切です

事例検討会 記録用紙

事例提供者			
対象生徒名	氏名	男・女	年
事例内容 (メモ欄)	経緯		
	今後		
質問 (知りたい情報)			
他者からの質問 (追加情報のメモ欄)			
考えられる支援や 意見 (私見)			
支援方針 (グループのまとめ)			
今後の支援方針の 具体策 (全グループ発表内容)			
備考欄			

